

ひまわり

～～年頭挨拶～～



院長

熊川 健二郎

新年あけましておめでとうございます。

今年の3.11で2011.3.11東日本大震災から丸8年経過します。

昨年の台風19号の影響もあり、恒例の忘年懇話会では、災害時の対応

(次ページをご覧ください)、特に、安否確認のためNTT災害時伝言ダイヤル(171)や当院の透析専用のメールアドレス(j-touseki@jusendo.or.jp)の利用法についてお話ししました。スタッフは患者さんと一緒に「大丈夫 君と歩いてゆこう」の気持ちを大事に寄り添っていきます。今年も宜しくお願いします。



名誉院長

白岩 康夫

今年は「子」年です。ネズミは子沢山、ネズミ算という言葉があるようにどんどん数を増やすことから、株が高くなり易いとされています。一方現実世界では穀物を食い荒らし、病気を媒介したりするので人類の敵とされてきました。ところで近代医学にとってネズミほど大切な動物はいないでしょう。マウスを使った腎臓炎の治療についてのES細胞から腎組織を作り出すことに成功しています。最近になって慈恵会医科大学の腎臓・高血圧内科ではラットによる腎臓再生に成功しました。これらの研究を発展させ、臨床応用に向けて歩き出したようです。まだまだ先のことですが自分のiPS細胞から腎臓を作り出し、機能を失った腎臓に取って代わる時代が来るに違いありません。夢をみましよう。そして希望を持って新年を迎えましょう。

新年あけましておめでとうございます。



センター長

百瀬 昭志

2017年末の透析患者の平均年齢は68.4歳となり、通院が困難な患者さんも増加してまいりました。そのような患者さんも入院しながら透析・リハビリを受けられるようにと、一昨年寿泉堂香久山病院に透析室を開設しました。さらに寿泉堂クリニックにおいても昨年より一部で送迎を開始しました。ただ、送迎のために逆に歩行などが減少し筋肉が低下してしまうという矛盾もあります。最近、筋肉の重要性から改めてリハビリが注目され透析室でリハビリも行う施設も増えてきましたが、歩行可能な患者さんには通院は筋肉だけでなく全身臓器のリハビリ治療の一部と考えて頂き寿泉堂クリニックまで元気に安全に通院していただけたらと願っております。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

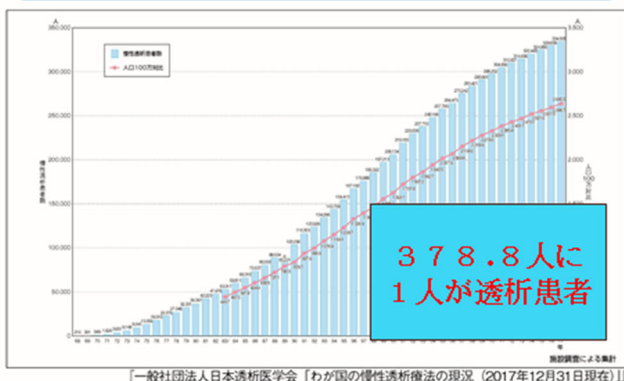
クリニック透析忘年懇話会

特別講演(前編)

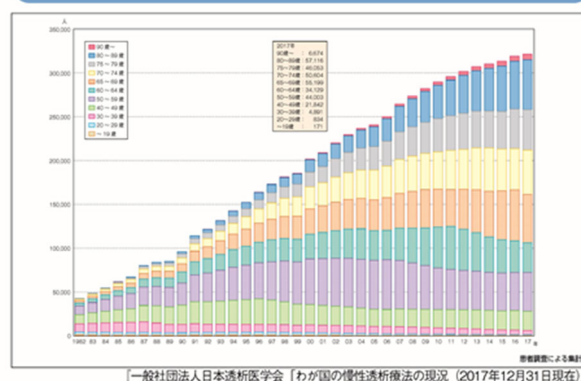
寿泉堂クリニック 院長
熊川健二郎

2019年11月26日にクリニック透析忘年懇話会において熊川先生より講演が行われました。今回は、2011年3月11日の東日本大震災や2019年10月台風19号など自然災害が多発していることから『災害対策』という題で講演がありました。講演内の一部をお届けします。

(1) 慢性透析患者数(1968-2017)と有病率(人口100万対比, 1983-2017)の推移 (図1)



(5) 慢性透析患者 年齢分布の推移, 1982-2017 (図5)



わが国の慢性透析療法の要約

	2015.12.31	2016.12.31	2017.12.31
患者数	324,986	329,609	334,505
導入平均年齢	69.20	69.40	69.70
1/国民	387.5	385.1	378.8
最長透析歴	47歳6カ月	48歳4カ月	49歳4カ月
導入数	39,462	39,344	40,957
死亡数	31,068	31,790	32,532

(参考)
2006年 66.4歳
導入平均年齢

まず、わが国の慢性透析療法を受けている患者数は334,505人である。国民378.8人辺り1人が透析患者である。透析患者数は年々増加傾向にあったが、近年患者数の伸びが鈍化している。また導入平均年齢においても2006年では66.4歳に対して2017年には69.7歳と+3歳と高齢化や医療の発達に伴い導入年齢が遅めになってきている。それにより年齢分布でもわかるとおり65歳~75歳の患者数が増加していることも関連している。

福島県の現況では血液透析患者数は+62人増加している。

しかし腹膜透析においては減少傾向にある。

福島県の現況

	2015.12.31	2016.12.31	2017.12.31
血液透析	4,714名	4,799名	4,861名
腹膜透析	171	134	122
CAPD	115	94	80
HD併用	56	40	42
計	4,885名	4,933名	4,983名

第1位 心不全

第2位 感染症

第3位 悪性腫瘍

続いて、東日本大震災です。震災がおきてから8年の月日が過ぎようとしています。福島県内で震度6強～5弱の地震が起き、立ってられないほどの大きな揺れを経験した人が多かったでしょう。

また福島第一原発では地震と津波により電源喪失。

福島第一原発

- ・1号機の原子炉建屋で水素爆発
- ・3号機の原子炉建屋で水素爆発、
- ・2号機では格納容器の一部が損傷、火災

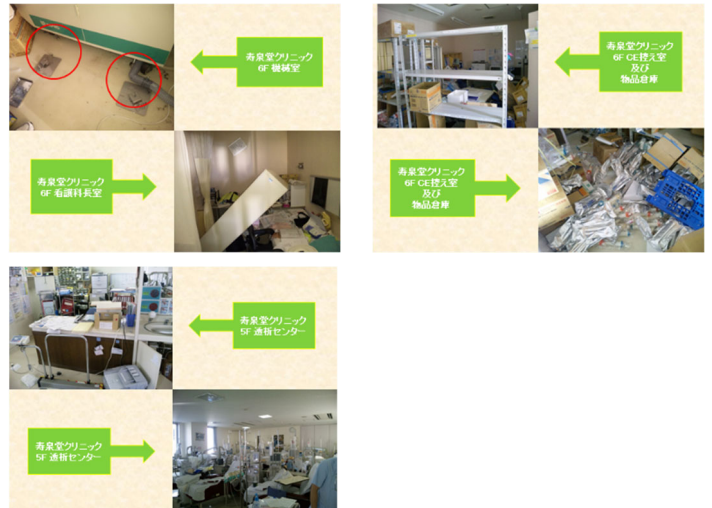
が発生して、国際評価尺度ではレベル7の最大評価になりました。

福島第一原発事故状況

年月日	事故状況
H23.3.11	福島第一原発1～3号機の原子炉自動停止 ⇒地震・津波にて電源喪失
H23.3.12	福島第一原発1号機原子炉建屋水素爆発
H23.3.14	福島第一原発3号機原子炉建屋水素爆発
H23.3.15	福島第一原発2号機で爆発音確認 (原子炉格納容器一部損傷) 福島第一原発4号機で、火災発生
H23.3.18	国際評価尺度にて、レベル5の評価(暫定)
H23.4.12	国際評価尺度にて、レベル7の最大評価(暫定)

H23.3.11 寿泉堂クリニックでは・・・

5F透析ペンタでは、4名の患者様が残り、(内1名に対して、血液回収を行う直前)地震発生時、スタッフが患者様に覆い被さったり、装置が倒れないように押さえたりと無我夢中の状況だった。血液回収については、地震の状態が落ち着いたタイミングで行う。震災は、金曜日で、準夜透析日(当クリニックは、月・水・金は、準夜透析も有り)でもあり、この時点でクリニックでは、透析業務の続行不可能と判断し、震災発生1ヶ月前に開設した寿泉堂総合病院で、(透析ベット数10床)準夜透析予定の患者様を病院に到着した順で透析条件を説明し、(透析条件:QD 300ml/min、2時間HD、1時間ECUM)合計3クール行う。翌12日、午前4時位に終了する。



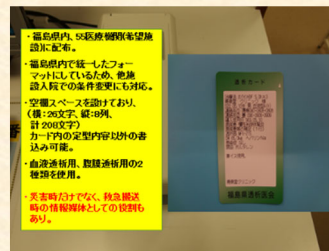
当院においても大きな被害が起きていました。震災が起きた時間帯が返血後だったため、残っている患者さんは少なかった。しかし患者さん、スタッフはとても怖い思いをしたと思います。またクリニックでは器材や機械室の装置などが揺れにより倒れたり、留め具が外れたり、壁が壊れたりと大変な被害が起きました。しかし、患者さん、スタッフともにけがをする人もいなく非常によかったと思っています。

4つの基本的透析室内地震対策

1. 透析用監視装置のキャスターは、ロックしないでフリーにしておく。
2. 透析ベッドのキャスターは床面に固定しないでロックだけしておく。
3. 透析液供給装置とRO装置は床面にアンカーボルトなどで固定しておく。あるいは免震台に載せておく。
4. 透析液供給装置およびRO装置と機械室壁面との接続部は、フレキシブルチューブを使用しておく。

リライトカード内容

- ◆ 名前、生年月日
- ◆ 透析条件
- ◆ 電話番号、
- ◆ ダイアライザー
- ◆ 原疾患
- ◆ 透析開始年月日
- ◆ 保険内容
- ◆ 感染症



問題点改善への対応(県中地区)

- ◎ 県中地区透析施設災害対策協議会設立
県中地区内の16の透析施設の医師、臨床工学技士、看護師で構成。この会議にて、災害発生時の事務局となる**拠点施設を3施設決定する。**

(活動内容:平成26年8月末日現在まで)

- 1) MCA無線訓練(無線送返信・メール送返信)
- 2) リライトカードによる患者情報運用
- 3) 行政に対する要望書(請願書)の提出
- 4) 第1回 災害時の透析医療を考える会開催(H26.5.15)

問題点改善への対応(県)

福島県透析医療災害対策連絡会議構成員

- 1) 福島県腎不全研究会
福島県立医大:腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科
泌尿器科
- 2) 日本透析医学会福島県支部
- 3) 地域ネットワーク拠点施設責任者
- 4) (一社)福島県臨床工学技士会
- 5) 顧問・オブザーバー:福島県保健福祉部地域医療課
福島県立医大救急医療学講座

請願書

災害による断水時の優先的 水の加配

東日本大震災を境に福島県立医科大学を中心に構成される透析医療災害時の組織が動き出しました。また県中地区でも透析施設16の医師、臨床工学技士、看護師で構成される透析施設災害対策協議会を設立しました。

1) MCA無線訓練

災害時停電や断水が予想されるため、無線を利用して他施設と連携をとるためにMCA無線を設置しています。

2) リライトカードによる患者情報運用

みなさんに配布しているカードは個人情報の他に原疾患、透析条件、DWなどが記載されています。旅行先や遠出時での救急受診や災害時に他施設で臨時透析を行なう場合にはその病院へ提示することで、透析情報の共有に繋がります。

3) 行政に対する請願書

災害時には停電や断水になる可能性が高いです。そのため、災害による断水時には優先的に給水をしてもらえるように要請しました。

今後の課題

“3. 11の体験を忘れないために”

透析条件
お薬手帳
保険証

カード常時携帯
携帯かスマホにとりこむ。

- ・連絡網の確認
- ・自分を守る体力をつけておく

他地域からの受け入れ体制の確立

災害や震災はいつ、どこで起こるか予測できません。そのため日頃からの備えが大切です。リライトカード、お薬手帳、保険証などは常時携帯するようにしましょう!!!

また家族間での避難場所や連絡先などは共有しておくといいでしょう!

忘年懇話会の講演内容が盛りだくさんのため、特別講演後編は次回のひまわり(春)42号に続く...

イベントレポート

第11回寿泉堂クリニック忘年懇話会開催!

2019年11月26日(火)に毎年恒例の忘年懇話会が開催されました。今回は新しい場所に変更して行なわれました。進行がなかなかスムーズに行かず、みなさんにはご迷惑をお掛けしました。その中でみなさんにじゃんけん大会やカラオケで大いに盛り上げて頂きありがとうございました!! まだまだ歌い足りない方もいるようでしたが、短い時間の中でみなさんと楽しい時間を過ごすことができました。

参加して頂いたみなさん、ありがとうございました。
忘年懇話会の場所や内容等のご意見やご感想をフロアスタッフまでお伝えください。
今後の参考にさせて頂きたいと思っております。



透析歴30年永年表彰
おめでとうございます!!

